

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

これからの税金

いわき市立中央台南中学校

2年 星 樹

昨年、消費税が5%から8%に引き上げられた。この事に対して僕は、あまりお金を使わないので、3%くらい大したことないと思っていた。しかし、母は、

「3%も上がるのかあ。」

と言っていた。たった3%と思うのか、3%も！と思うのかは人それぞれで、日常生活によって変わってくるのではないだろうか。実際、家計を管理している母にとっては、日々の食費や光熱費などの生活の中で必要不可欠な出費の積み重ねによりどのくらいの負担増になるのかが一番の心配事であった。一方、近々車の購入を考えていた父は10万円近くも増額されることで頭を悩ませていた。こんなにも大人達が関心を寄せている消費税がなぜ引き上げられなければいけないのか、またどのように役立てられているのかについて関心を持ち、インターネットや本で調べてみた。すると僕の将来にとって興味深いことが考えられた。以下2つの視点から述べていきたい。

1つ目は、なぜ消費税を引き上げる必要があるのかということだ。まず驚いたことは、日本は先進国でありながら借金大国であるということだ。その一因が社会保障費の増大である。これからの日本は、少子高齢化により現役世代が減り、高齢者が増えていくため、必要な年金や医療費などが増える。それで、今の税収では払い切れない。そのため、将来社会保障の質を落とさないようにするため、増税するのだ。未来の僕達の生活を考えれば仕方のないことだったのだ。

2つ目は、消費税はどのように役立てられているのか、また、無駄遣いはされていないのかということだ。調べてみると、とても驚くべきことを発見した。それは、税金の

無駄遣いと指摘されている額が2831億円にも上るということだ。例としては、人の少ない田舎にトンネルを掘り、数兆円かけて無駄な高速道路や新幹線の建設が挙げられる。こんなにもたくさんのお金を無駄にしているのにもかかわらず、消費税を増税するのは、おかしいと思う。その一方、難病対策や子育て支援など生活の中で役に立つ、良い使い方もされている。しかし、このような社会保障の充実に充てられているのは、1割にとどまっており、残りの9割は社会保障の安定化や借金の返済に充てられている。

2017年の4月には消費税が10%に引き上げられる。その10%の税金をどれだけ無駄なく、使うことができるのかということがこの先、少子高齢化が進む日本にとって社会保障を落とさないために一番大切なことだと思う。確かに、増税をすれば簡単に税収が増え、社会保障の質は落ちない。しかし、消費者への負担は大きくなってしまう。このことから将来、僕達、それからその先の人達も今と同じ、それ以上の保障を受けるためには、無駄遣いをなくし、増税を最後の手段にすべきだ。